

神経精神科学

| | |
|--------|-----------|
| ナンバリング | M4-S1-D23 |
|--------|-----------|

| | | | |
|--------------|--|----------------------|------------------------------|
| 責任者・コーディネーター | 神経精神科学講座 大塚 耕太郎 教授 | | |
| 担当講座・学科（分野） | 神経精神科学講座、睡眠医療学科 | | |
| 担当教員 | 大塚 耕太郎 教授、八木 淳子 教授、福本 健太郎 准教授、三條 克巳 講師、山家 健仁 講師、三田 俊成 講師、内出 希 講師、細川 敬輔 特任講師、小泉 文人 助教、及川 暁 非常勤講師、智田 文徳 非常勤講師、中山 秀紀 非常勤講師、小泉 範高 非常勤講師、遠藤 仁 非常勤講師 | | |
| 対象学年 | 4 | 区分・時間数 (1コマ2時間計算) | 講義 14コマ 28.0時間 |
| 期間 | 前期 | | 演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間 |

・学習方針（講義概要等）

精神医学は人間の精神現象を扱い、生物学、哲学、心理学、経済、歴史など幅広い領域にまたがる学問体系である。正常の精神現象や精神機能、メンタルヘルスについてはもとより、異常な精神現象として精神障害の症候論、病態、診断、治療を理解することが目標となる。加えて、チーム医療や身体科医療チームとのコンサルテーション・リエゾン精神医療についても理解することが求められる。また、精神医学は適切な規範を基盤にする学問であるため、精神医学を学ぶものは倫理観、一般常識を背景とした価値観を持つことや、法律を遵守する精神を理解する必要がある。さらに、地域医療、産業精神保健、災害精神医療、自殺対策、医療安全など時代のニーズにこたえる精神医学の基本知識について理解することも目標とする。

・教育成果（アウトカム）

1. メンタルヘルス問題の基本知識、こころの発達やパーソナリティ、睡眠障害、精神保健福祉法と精神保健、精神医学に携わるものの基本姿勢、コミュニケーション、面接技法、チーム医療、精神科リハビリテーションについて学ぶことで、精神現象の基本的知識、患者の人権への配慮、精神保健福祉法の理念、患者中心の医療、コンサルテーション・リエゾン精神医学について説明できる。
 2. 小児期から老年期までの精神障害について包括的に学ぶことで、それぞれの精神障害の精神機能の障害の原因、症候論、本態、診断、経過、治療、予後を理解し、説明できる。
 3. 地域医療、産業精神保健、災害精神医療、自殺対策、医療安全などを学ぶことで、社会で必要とされる精神保健対策を理解し、説明できる。
- （ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 ）

・到達目標（SBOs）

| No. | 項目 |
|-----|--|
| 1 | こころの発達とパーソナリティの概要とその逸脱、精神医学的症状および心理学的構造を説明できる。 |
| 2 | 診断の補助となる患者の外観と行動・振る舞いの異常を説明できる。 |
| 3 | 意識障害、幻覚妄想、不安抑うつ、不眠などの主要症状をきたす疾患と鑑別診断について説明できる。 |
| 4 | 小児期から老年期までの主要な精神疾患の概念、疫学、主要症状、診断、鑑別診断、治療、予後を説明できる。 |
| 5 | 精神医学的倫理観、人権への配慮、精神保健福祉法や関連の法令、制度について説明できる。 |
| 6 | 精神医学に携わるものの基本姿勢、コミュニケーション・面接技法、医師－患者関係、薬物療法と精神療法（支持的精神療法、精神分析、行動療法、認知行動療法など）について説明できる。 |
| 7 | 児童・青年期精神医学の主要な問題とケアについて説明できる。 |
| 8 | 脳に関する神経生物学の基礎に関して学び、精神機能や精神疾患における器質・症状因子や不安抑うつ病態生理について説明できる。 |
| 9 | 我が国のメンタルヘルス問題や地域医療、産業精神保健、災害精神医療、自殺対策、医療安全、コロナ渦のメンタルヘルス対策などの社会で必要とされるメンタルヘルス対策について説明できる。 |
| 10 | 精神科チーム医療やコンサルテーション・リエゾン精神医学について説明できる。 |
| 11 | ストレスと心身への影響、精神障害の発症と治療について説明できる。 |
| 12 | 精神科診断学および所見把握法、記録法（精神科カルテ、記載法）、問題解決アプローチについて理解し、説明できる。 |
| 13 | 睡眠障害と精神現象の関連と、その治療について説明できる。 |
| 14 | デイケアや作業療法などをはじめとした精神科リハビリテーションと背景の制度について説明できる。 |

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

| 区分 | 月日 | 時限 | 講座（学科） | 担当教員 | 講義内容 | 到達目標番号 |
|----|---------|----|--------------------|------------------------|---|---------------------|
| 講義 | 4/14(月) | 1 | 神経精神科学講座 | 福本 健太郎 准教授 | 精神科症状論・基本診察 | 4,5,6,7,9,10,13 |
| 講義 | 4/14(月) | 2 | 神経精神科学講座 | 大塚 耕太郎 教授 | 統合失調症（F2）と社会復帰・地域移行、精神科リハビリテーション1 | 2,3,12 |
| 講義 | 5/1(木) | 2 | 神経精神科学講座 | 遠藤 仁 非常勤講師 | 災害精神医療・地域精神保健・地域医療・ソーシャルワーク、精神科リハビリテーション2 | 3,4,8,13,14,22 |
| 講義 | 5/8(木) | 2 | 神経精神科学講座 | 山家 健仁 講師 | 気分障害（F3） | 4,6,9,12,13,14,23 |
| 講義 | 5/22(木) | 1 | 神経精神科学講座 | 八木 淳子 教授 | 発達障害・自閉症（F8）、災害児童精神医学 | 4,13,21,23 |
| 講義 | 5/22(木) | 2 | 神経精神科学講座 | 八木 淳子 教授 | 児童・青年期精神障害(F9)、摂食障害（F5）、心理発達 | 4,8,9 |
| 講義 | 5/29(木) | 1 | 神経精神科学講座 | 内出 希 講師 | 反応性精神障害、知的障害・パーソナリティ障害（F6・7） | 2,3,4,8,10,13,23 |
| 講義 | 5/29(木) | 2 | 神経精神科学講座 | 三田 俊成 講師 | 老年期精神障害（気分障害・認知症・周辺症状）（F0） | 3,4,5,9,10,13,14,23 |
| 講義 | 6/2(月) | 1 | 神経精神科学講座 | 小泉 範高 非常勤講師 | メンタルヘルス・医療安全・産業精神保健 | 6,8,10,11,12,13,22 |
| 講義 | 6/2(月) | 2 | 神経精神科学講座 | 智田 文徳 非常勤講師 | 神経症性・ストレス関連性障害（F4） | 9,13 |
| 講義 | 6/9(月) | 1 | 神経精神科学講座 | 小泉 文人 助教 | 器質性・症状性精神障害（F0）、コンサルテーションリエゾン | 1,4,13,22 |
| 講義 | 6/9(月) | 2 | 神経精神科学講座 睡眠医療学科 | 三條 克巳 講師 細川 敬輔 特任講師 | 精神科的薬物療法・睡眠障害について | 1,4,11,12,13,22 |
| 講義 | 6/17(火) | 5 | 神経精神科学講座 | 及川 暁 非常勤講師 | 精神保健福祉法・倫理・関連法規 | 1,4,5,8,12,13,21 |
| 講義 | 6/19(木) | 2 | 神経精神科学講座 | 中山 秀紀 非常勤講師 | アルコール症と薬物依存(F1) | 1,2,3,4,6,22 |

・ 教科書・参考書等

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|------|---|-------------------------------------|----------|-----------|
| 教科書 | ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン(新訂版) | World Health Organization 編、融道男 他監訳 | 医学書院 | 2005 |
| 教科書 | 標準精神医学 第9版 | 尾崎 紀夫、三村 将監修、水野 雅文、村井 俊哉、明智龍男編集 | 医学書院 | 2024 |
| 参考書 | NEW精神医学 改訂2版 | 上島国利、丹羽真一 編 | 南江堂 | 2008 |
| 推薦図書 | 臨床精神医学講座 全38巻 | 松下正明 総編集 | 中山書店 | 1997 |
| 教科書 | 現代臨床精神医学 改訂第12版 | 大熊輝雄 原著 | 金原出版株式会社 | 2013 |
| 推薦図書 | 講座 精神疾患の臨床全9巻 | 松下正明監修 | 中山書店 | 2020-2024 |
| 推薦図書 | 専門医のための精神科臨床リュミエール全30巻 | 松下正明総編者 | 中山書店 | 2008-2009 |

・ 成績評価方法

| |
|---|
| <p>【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 質問形式を講義内容に挿入し、理解度を確認してから、学生にフィードバックして理解をうながす。</p> |
|---|

・特記事項・その他

1. 系統講義（精神障害について系統的に講義する）
1) 精神症状総論：知覚障害、思考障害、記憶障害、知能障害、感情障害、意志・欲動障害、意識障害、自我意識障害
2) 精神障害各論：器質性・症状性精神障害（F0）、アルコール依存・物質依存（F1）、統合失調症（F2）、気分障害（F3）、ストレス関連障害（F4）、摂食障害（F5）、パーソナリティ障害（F6）、知的障害（F7）、発達障害・自閉症（F8）、児童・青年期精神障害（F9）
2. 臨床講義（系統講義で示した精神障害について、診断、治療、社会復帰、予防について講義）
1) コンサルテーション・リエゾン精神医学、精神保健福祉法の概説を行う。
2) その他として社会精神医学、治療学、精神保健についても随時補足する。特に精神保健としては重点的に講義し、地域医療、産業精神保健、災害精神医療、自殺対策なども講義する。

3. 教科書・参考書等について注意
教科書のうち、ICD-10精神および行動の障害：臨床記述と診断ガイドライン 新訂版（医学書院）は必ず購入するものとする。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。
本科目では、事前事後学修以外に180分の自己学修を要す。
当該科目に関連する実務経験の有無 有
大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書、参考書、PC、視覚教材など。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|------------------------|----|--------|
| 講義 | パソコン一式 Lenovo | 1 | 講義資料作成 |
| 講義 | デジタルフルカラー複合機リコーMPC6003 | 1 | 講義資料作成 |
| 講義 | ノートパソコンFMVU90H1B | 1 | 講義資料作成 |